



中部大学春日丘高校 SGH課題研究

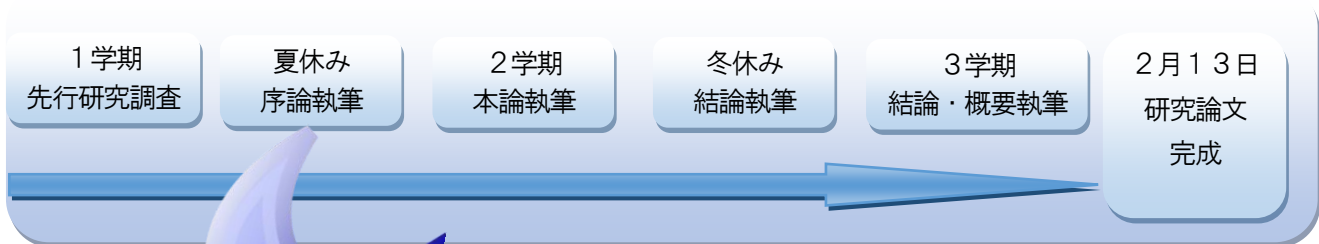
## ゼミ活動報告①

### ～先行研究の調査から序論の完成～

#### ●ゼミ活動について

SGH 通信 Vol. 32 でお伝えした通り、1 学期は先行研究の調査および共有を目的とした全 4 回のゼミ活動を行い、それらの調査・考察をもとにして夏休み中に執筆した「序論」について、2 学期最初のゼミ活動を行いました。

2 学期最初のゼミ活動は中部大学の大学院生などの方からも、一度書き上げた「序論」について、アドバイスをいただきました。



#### ●各領域のゼミ活等の指導

##### 国際開発

当初はテーマが定まらず、右往左往していましたが序論を執筆するようになってからは何をどう調べればいいのか、どのような視点を持って物事を捉えることが必要であるかが見えてきたようです。ゼミでは、基本的に個人テーマに沿った各自の調べ学習を発表し、それに関して他の生徒同士で議論をする形をとっています。先日の大学院生の講義においては、論文の書き方について詳しく指導をしていただいたことで新たな発想や、調べ学習に必要なアイデアをもらうことができました。論文指導のゼミでは、一人一人が個別面談の形式で指導していただきました。今回指導をしていただいた内容を含め再度序論を書きなおし、これからの研究をより具体的に、さらに深化した内容になるよう指導していきたいと思っております。



## 国際ビジネス

総勢8人の国際ビジネス班は、「エスニック・ビジネス」、「フェアトレード」「エビの輸入」などのテーマで、それぞれ先行研究を進めました。思うような書籍やデータがそろわず、右往左往することもあり、また調べていくうちに新たな興味、関心が湧いて、テーマを変更することもありました。夏休みに実施されたインドネシア研修の参加者は、さらに意欲を高めたようです。

9月最初のゼミ活動では、これまでの先行研究から、序論を完成させ、それを大学院生に読んでいただき、今後の研究に向けてアドバイスをいただきました。生徒は「ポイントが分かりやすく、スッキリした。」といった感じで、次の活動に向けて大きな一歩を踏み出すことができたようです。

今後も3回にわたり、大学院生に論文に対してアドバイスをもらい、より良い研究になるよう班員全員で進めたく予定です。

## 医療・福祉

医療・福祉ということで、「児童労働」、「保険」、「飢餓」などと生徒たちは多岐にわたるテーマを選択しています。

1学期の先行研究収集に始まり、生徒が事前に文章を作成し、当日は生徒同士がディスカッションを行います。教員が答えを出してしまうのは簡単ですが、生徒同士が議論を通じて、自分の資料に不足している点や説明しきれていない点を発見することができるように、そんな思いでゼミを展開しています。

基本的展開パターンは、以下の通りです。

- ① 報告者は文章を全員に配付する。
- ② 批評者 配付された文章を読み、そこに疑問点・改善点をメモする。その間、報告者は質問に備える。
- ③ 批評者は質問・批評を行い、報告者はそれに対して応答する。

以上の内容を班員全員が行えるように繰り返します。

テーマの違う者同士なので発見できる点は限られてはいますが、むしろ「暗黙の了解」が成立せず、疑問点などが素直に出てきます。2学期最初のゼミでは、生徒のディスカッションに大学院生の方に参加していただき、アドバイスをいただきました。それにより、一度書き上げた「序論」について若干の修正を加えることができました。

## 環境エネルギー

9月最初のゼミ活動に向けて、夏休み中に序論を完成させました。「大気汚染 Haze の問題」、「水質汚染の問題」、「再生可能エネルギー」など大人が取り組んでも大変なテーマを生徒たちは掲げました。序論を読んだ大学院生からはとても壮大なテーマで素晴らしい姿勢だが、問題が大きすぎていずれ行き詰まるのではないかと心配されました。本当に探求したいテーマで身近なところからスタートすれば、いろいろな切り口が見えてきて、環境とのつながりやエネルギー問題とのつながりも発見できると、今後の研究に向けてのアドバイスをいただきました。

## 今後の展開

全体の方向性を決める「序論」が書きあがりまりましたので、ここから本格的に「本論」を執筆していきます。「本論」は3章立ての構成で、第1章は「課題の原因、歴史的背景」についてです。それについての指導の経緯などはSGH通信で改めてお伝えする予定です。

